

# 「あたりまえ」を続けるために

## 水道局からのお知らせ

水道に関する情報をお伝えします

【詳細】水道局総務課 電24・3160

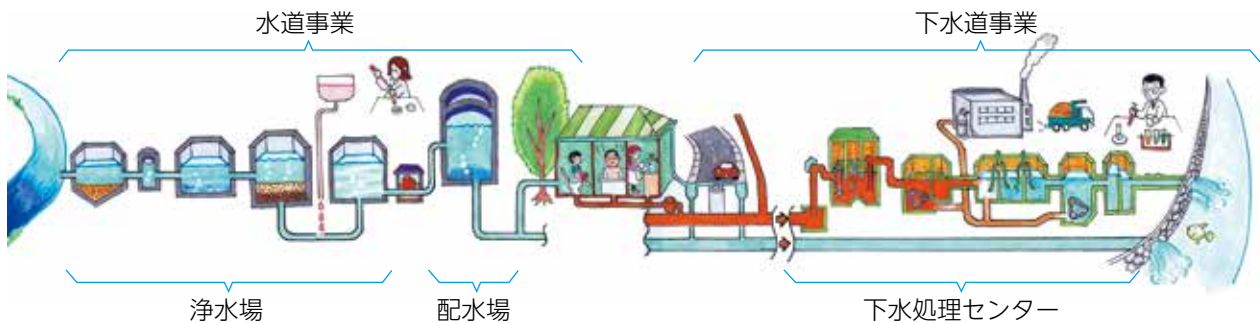
蛇口をひねると、いつでもきれいで安全な水が出てくる。そんな「あたりまえ」を続けていくため、現在、水道局では、水道料金の見直しを検討しています。

えっ？  
令和4年度、  
経営危機に？

旭川市の水道水の源「石狩川」と旭橋

### 水道事業は水道料金で支えられています

水道事業は、原則税金を使わず、利用者が支払う利用料等によって事業を行う企業会計方式で運営しています。皆さんに、お風呂・トイレ・炊事・洗濯など生活に欠かすことのできない水道水を、24時間365日お届けするため、水道水をつくったり施設を維持管理するには、多くの費用がかかります。これらの費用は、**皆さんから頂く水道料金で賄われています。**



### 水道料金収入が減少しています

料金収入は年々減少しており、平成26年度に約49億3千万円だった収入は、令和元年度には約47億3千万円と**5年間で約2億円の減収**となっています。主な要因としては、人口減少の他、節水機器の普及等が考えられます。

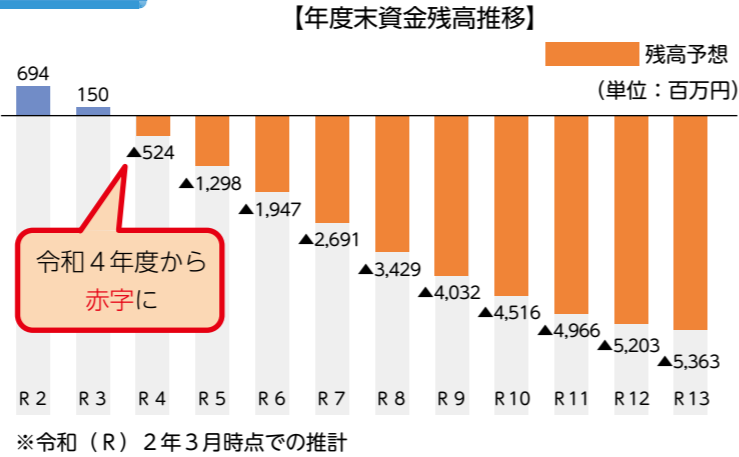


旭川市の水道料金は、平成4年度以降、消費税率の引き上げに伴うもの以外での改定を行っていません

このままでは令和4年度に資金不足に

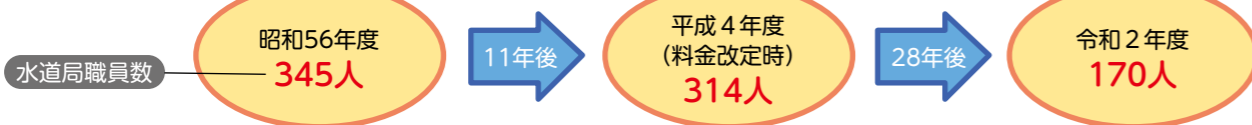
料金収入は減少する見込みですが、老朽化した水道管は増えていくため、更新にかかる費用は増加していきます。このままでは、**令和4年度に事業運営に必要な資金が底をついてしまい、必要な事業を実施できない状況**となります。

経営が厳しいってこと？  
水道局は何か経営努力をしているの？



経費削減に取り組んできましたが

水道局では、中長期的な財政計画を策定し、計画に基づいて事業を運営しています。これまでも水道管の更新費用を始めとした支出抑制に努めてきた他、組織の見直しなどによる経費削減に取り組んできました。業務の一部を委託するなど人員削減を進め、昭和56年度に最大345人いた職員は、令和2年度には170人と**ピーク時の半数以下**になっています。



これからも経費削減に努めていきますが、頻発する自然災害への対応や技術継承の観点から、職員数の大幅な削減による経費削減は難しい状況です。

これからも安定した水道水の供給に向けて

水道事業は、今使用している皆さんはもちろんのこと、これから使用する皆さんの財産でもあるため、確実に将来へつないでいく必要があります。これまでも経費削減に努めてきましたが、今後も安定した水道水の供給を行うためには、**水道料金の見直し**を検討していかなければなりません。

水道料金の見直しは、学識経験者や市民団体、関係団体の方などで構成される上下水道事業審議会での議論や、市民の皆さんのご意見を聞きながら進めていきます。



「水のはなし～水道・下水道の豆知識～」をご覧ください

水道局ホームページに水にまつわる豆知識を掲載していますので、ぜひご覧ください。

例：水のはなし(その3) 水道水は安い？

100円で買えるのは、500mlのペットボトル水だと1本分ですが、水道水だと浴槽約3杯分。500mlのペットボトル水を1日1本飲んだとすると、年間36,500円の支出となりますが、水道水では年間約27円しかかかりません(一部抜粋)



その他●人が1日に使う水の量は ●水は限りある資源 ●マンホールの蓋はなぜ丸い？ など

施設の老朽化が進んでいます

浄水場や水道管などの水道施設は、昭和40～50年代に整備したものが多く、耐用年数の40年を超える水道管が増え、老朽化による漏水等の事故が起きやすい状態となっています。

老朽管(耐用年数を超えた水道管)の延長(長さ)

令和元年度	→ 415km (全体の約18%)
水道管の更新(交換)を行わなかった場合	
同6年度	→ 763km (全体の約34%)
同11年度	→ 1,066km (全体の約47%)

老朽管をそのままにしておくと、腐食により穴があき

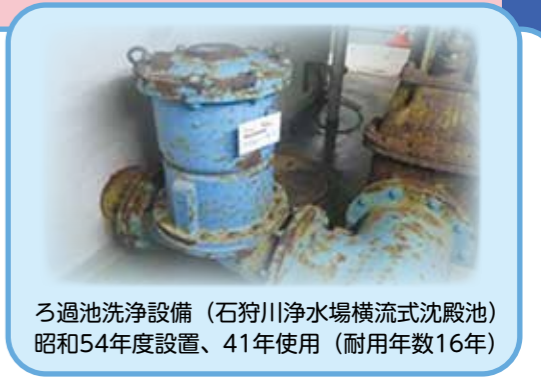
漏水事故が起きてしまうと、修繕のために広い地域で断水となり、皆さんの家庭に水道水をお届けできなくなります。また、大規模な漏水が発生すると、大量の水を失うだけでなく、あふれた水が道路に広がって通行の妨げになったり、漏水部分の道路が陥没するなど、**皆さんの生活や経済活動に大きな影響**を与えてしまいます。

老朽化した水道管は順次更新していく必要があり、市内には2,272km(令和元年末現在)の水道管が埋設されているため、老朽化が進む基幹管路を優先するなど、漏水の被害を抑制しながら、計画的に更新していきます。

計画的に更新していきます

平成28～令和元年度	年平均16km (全体の約0.7%)
令和2～4年度	全体の1%を目標に段階的に更新延長を増加
令和5年度～	年22km (全体の約1%)

※現在は、地震に強く100年の使用が期待できるダクタイル鋳鉄管(GX形)とポリエチレン管(HPP)を使用しています。



この漏水事故では、1分間に16㎡(浴槽80杯分)の水が流れました



水道管の更新費用として、1km当たり約9,500万円がかかると見込んでいます

災害に備えて非常用自家発電設備を設置します

浄水場では、災害や事故で停電となっても水道水をお届けするため、配水場(4か所)に約12時間分の水道水を確保しています。

平成30年9月に起きた北海道胆振東部地震では、北海道全域が停電となり、浄水場から配水場に水道水を送ることができませんでした。幸いにも配水場の水道水がなくなる前に電気の供給が始まり、断水には至りませんでした。安定した水道水の供給を行うため、現在、**石狩川浄水場に非常用自家発電設備**の整備を進めており、今年3月に完成予定です。また、忠別川浄水場にも非常用自家発電設備の設置を進めます。



石狩川浄水場非常用自家発電設備(工事中)